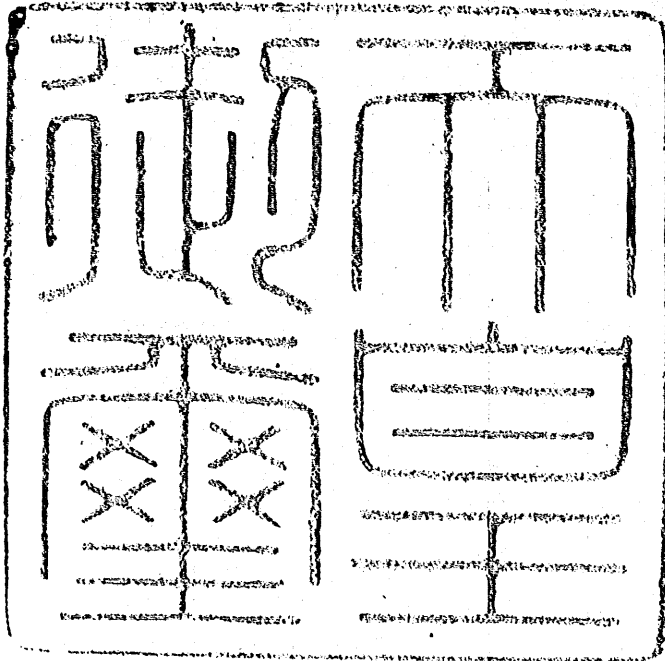


勅令第三百八十八号

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ大學令ヲ裁可  
シ茲ニ之ヲ公布セシム

吉野加仁



大正七年十二月五日

内閣總理大臣  
文部大臣  
中務大臣  
逕

勅令第三百八十八號

大學令

第一條 大學ハ國家ニ須要ナル學術ノ  
理論及應用ヲ教授シ並其ノ蘊奧ヲ攻  
究スルヲ以テ目的トシ兼テ人格ノ陶  
治及國家思想ノ涵養ニ留意スヘキモ  
ノトス

第二條 大學ニハ數個ノ學部ヲ置クヲ  
常例トス但シ特別ノ必要アル場合ニ  
於テハ單ニ一個ノ學部ヲ置クモノヲ

以テ一大學ト為スコトヲ得

學部ハ法學醫學工學文學理學農學經  
濟學及高學ノ各部トス

特別ノ必要アル場合ニ於テ實質及規  
模一學部ヲ構成スルニ適スルトキハ  
前項ノ學部ヲ分合シテ學部ヲ設クル  
コトヲ得

第三條 學部ニハ研究科ヲ置クヘシ  
數個ノ學部ヲ置キタル大學ニ於テハ  
研究科間ノ聯絡協調ヲ期スル為之ヲ

綜合シテ大學院ヲ設クルコトヲ得

第四條 大學ハ帝國大學其ノ他官立ノ  
モノノ外本令ノ規定ニ依リ公立又ハ  
私立ト為スコトヲ得

第五條 公立大學ハ特別ノ必要アル場  
合ニ於テ北海道及府縣ニ限り之ヲ設  
立スルコトヲ得

第六條 私立大學ハ財團法人タルコト  
ヲ要ス但シ特別ノ必要ニ因リ學校經  
營ノミヲ目的トスル財團法人カ其ノ

事業トシテ之ヲ設立スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 前條ノ財團法人ハ大學ニ必要ナル設備又ハ之ニ要スル資金及少クトモ大學ヲ維持スルニ足ルヘキ收入ヲ生スル基本財産ヲ有スルコトヲ要ス

基本財産中前項ニ該當スルモノハ現金又ハ國債證券其ノ他文部大臣ノ定ムル有價證券トシ之ヲ供託スヘシ

第八條 公立及私立ノ大學ノ設立廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ學部ノ設置廢止亦同シ  
前項ノ認可ハ文部大臣ニ於テ勅裁ヲ請フヘシ

第九條 學部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該大學豫科ヲ修了シタル者高等學校高等科ヲ卒リタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス

入學ノ順位ニ關スル規程ハ文部大臣  
之ヲ定ム

第十條 學部ニ三年以上在學シ一定ノ  
試験ヲ受ケ之ニ合格シタル者ハ學士  
ト稱スルコトヲ得

前項ノ在學年限ハ醫學ヲ修ムル者ニ  
在リテハ四年以上トス

第十一條 研究科ニ入ルコトヲ得ル者  
ハ醫學ヲ修ムル者ニ在リテハ四年以  
上其ノ他ノ者ニ在リテハ三年以上當該

學部ニ在學シ其ノ他相當ノ學力ヲ具  
ヘタル者ニシテ當該學部ニ於テ適當  
ト認メタルモノトス

第十二條 大學ニハ特別ノ必要アル場  
合ニ於テ豫科ヲ置クコトヲ得

大學豫科ニ於テハ高等學校高等科ノ  
程度ニ依リ高等普通教育ヲ為スヘシ

第十三條 大學豫科ノ修業年限ハ三年  
又ハ二年トス

修業年限三年ノ大學豫科ニ入學スル

コトヲ得ル者ハ中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

修業年限二年ノ大學豫科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認めラレタル者トス

第十四條 大學豫科ノ設備、編制、教員及

教科書ニ付テハ高等學校高等科ニ關スル規定ヲ準用ス

第十五條 大學豫科ノ生徒定數ハ毎年ノ豫科修了者ノ負數カ其ノ年當該大學ニ收容シ得ル負數ヲ超過セサル程度ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 大學及大學豫科ノ學則ハ法令ノ範圍内ニ於テ當該大學之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 公立及私立ノ大學ニハ相當

員數ノ專任教員ヲ置クヘシ

第十八條 私立大學ノ教員ノ採用ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ公立大學ノ教員ニシテ官吏ノ待遇ヲ受ケサル者ニ付亦同シ

第十九條 公立及私立ノ大學ハ文部大臣ノ監督ニ屬ス

第二十條 文部大臣ハ公立及私立ノ大學ニ對シ報告ヲ徴シ檢閲ヲ行ヒ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ為スコトヲ

得

第二十一條 本令ニ依ラサル學校ハ勅定規程ニ別段ノ定マル場合ヲ除クノ外大學ト稱シ又ハ其ノ名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令施行ノ際現ニ大學ト稱シ又ハ其ノ

名稱ニ大學タルコトヲ示スヘキ支字ヲ  
用ウル學校ニハ當分ノ内第二十一條ノ  
規定ヲ適用セス